【中山間地域フォーラムシンポジウム】（2023/7/8）

ポストコロナ期の集落の未来
～ローカルコモンズの役割は何か～

【解題】シンポジウムのねらいと流れ

図司直也（法政大学現代福祉学部　教授）
E-mail：zushi@hosei.ac.jp

ポストコロナ局面での中山間地域

〇高齢化、人口減少の局面が一段と進む…「人がいなくなった」

ex.宮城・丸森町筆甫：この1年で、470人→446人

高齢化率57%→61.2%

〇今年の春先：各地で、集落活動再開の判断に思い悩む区長の姿

〇農村政策の各論（農村RMOなど）に対する現場の関心の格差

（先発組が実践→政策で横展開目指すも、環境が厳しい後発組）

▼中山間直払：中間年評価アンケートから（第三者委員会（6/23））

・荒廃農地の発生防止、水路･農道維持の効果に高い実感（8割）

⇔集落機能維持の実感低い（3割）

・話し合いの範囲も、集落寄合は76%⇔協定参加者のみ23%

…協定からの参加者離脱が進む傾向

＝農業が集落課題の一部に矮小化。資源管理の現状維持で手一杯。

・協定代表者の5割、事務担当者の3割が70代以上に。

基本法見直しの中間とりまとめ（2023年5月末）

【農村に関する基本的施策】農村人口が減少する中で集落による農業を下支えする機能を集約的に維持

〇多様な人材の活用による農村の機能の確保：

農地の集積・集約化を進め、副業的経営体など多様な農業人材が農地の保全・管理を適正に行う／集落内外の非農業者やNPO法人等の集落活動への参画／集落外からの新規参入による農地利用や集落活動への参画

＝農業施策で分かれる「多様な農業人材」…「車の両輪」？

〇中山間地域における農業の継続

中山間地域等直接支払の引き続きの推進、営農を継続できない農地は、粗放的管理や林地化 等

＝ 「地域政策の総合化」を反映した議論盛り上がらず

⇒現場へのプッシュ型支援の必要性高まるも、農政での支援の余地は？多様な周辺主体からの関わり方は？

【本シンポジウムのねらい】
縮退局面の中山間地域集落の未来をどう展望するのか。

13：15【特別講演】中山間地域の現代的価値を考える～ローカルな知恵に学びながら　　中山間地域ﾌｫｰﾗﾑ会長　生源寺眞一氏

13：45【研究報告】地域づくり～集落自治の枠組みを問い直す
徳島大学　田口太郎氏

14：15【現場報告】

①「集落の教科書づくり」　　NPO法人テダス　田畑昇悟氏

②長野県松川町（一人一坪農園･有機農業･学校給食…）
松川町産業観光課　宮島公香氏

③高知県「小さな集落活性化事業」
高知県中山間地域対策課長　安藤 優氏

～質問紙回収～

15：30【ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ】ﾎﾟｽﾄｺﾛﾅ期における集落の未来を語る
進行：東京大学　西原是良氏

16：30【閉会】閉会挨拶